

## 病気の子どもを支援 東京キワニスクラブ 都内で人形作りイベント

入院中の子どもに対する治療の説明、親元を離れる不安の解消などに使われる人形「キワニストール」に関するイベントがこのほど、都内で開催された。東京電力OBら企

業関係者も参加する奉仕団体「東京キワニスクラブ」が主催した。一般ボランティアや協賛企業などから100人以上が参加。どのように人形が役立つっているか現場の声を共有したり、実際に人形作りを体験したりした。イベントは「キワニストールフェスティバル」と題して2009年に始まり、毎年この時期に行っている。米国が発祥のキワニストールは、白い生地を綿を詰めた小さな人形で、医療機関に寄贈される。寄贈された人形は医療関係者が絵を描いて病気の治療の説明をしたり、子供が顔や洋服を描いて入院中のおもちゃとして使われたりする。

当日はトークセッションと題し、医療現場で働く看護師や病棟保育士など5人が登壇。子供と人形のふれあいエピソードや子供が人形をもらった際、どのような反応をするか参加者に説明を行った。登壇者は、キワニストールを「子供にとって一緒に頑張れる同士」「保護者との懸け橋」などと表現し、参加した支援者へ感謝の意を示した。その後、参加者は、人形作りを実際に体験。前もって人形の形にかたどられた生地に、50gの綿を詰め込み、開口部を縫って完成させる。東電OBで、キワニストールのシニアアドバイザーとして活躍する星利樹さんらも指導役として参加。早い人は30分ほどで完成させていた。



東電OBの星利樹さん(奥)らが、人形作りを指導した